

① ウクライナ：抵抗と連帯の声

レジスタンスブック USC 2022

2023 年 1 月 6 日、RICHARD ABERNETHY

ウクライナでの戦争は、膨大な報道、分析、意見、討論（プロパガンダや偽情報も含む）を生み出したが、社会主義者、フェミニスト、労働組合活動家などのウクライナ左派の声はほとんど聞かれていない。

この本 [1] は、そのギャップを埋めるために多くのことを行っています。このエッセイ、記事、およびインタビューのコレクションへの寄稿者のほとんどは、ウクライナまたは海外に住んでいるウクライナ人、またはウクライナ系の人々です。彼らの何人かは、新しい左翼組織ソツィアルニ ルフ/社会運動のメンバーです。他の貢献は、国際的な（ロシアを含む）ウクライナのレジスタンスの左翼支持者からのものです。

世界政治、特に戦争における大変動は、急進的な思想に挑戦をもたらします。新たな分断が生じたり、既存の分断が深まり、明確になったりします。同時に、新しい接続が作成され、新しい同盟が形成されます。⁴

大まかに言って、国際左派のウクライナ戦争に対する態度は、3 つの陣営に分かれる。反帝国主義の名の下に、プーチンの戦争を支持するか、少なくとも言い訳をする人々がいます。ロシアは、NATO の拡張主義に反対していると主張されている。ウクライナは、NATO の代理人と見なされています。ロシアは、西側の世界支配に対するカウンターバランスと見なされている人もいます。

中立的な見解では、これは帝国主義者間の紛争であり、双方が等しく対立するものであるということです。少なくともこれは、露骨な帝国主義のために、ウクライナの全部または一部を征服し、それを可能な限りロシア連邦に吸収しようとするプーチンの意欲を認めるメリットがある。

これらの両方の視点の根底には、自分たちの生活を形作りたいというウクライナの人々の願望が、大国間の争いに取り込まれているという前提があります（実際、ロシアに対抗する西側諸国を支持する多くの人々が共有しています）。

この本の寄稿者は、ウクライナの人々が手先や代理人ではないことを示しています。彼らは自分たちの自由、独立、自己決定のために戦っています。

この本は、国際的な左翼と労働運動がウクライナの闘争を支持する強力な議論と、その支持を否定する傾向に対する壊滅的な批判を提示している。

武力抵抗の権利

ウクライナが侵略に対して武力抵抗する権利を持っているなら、それはどんな供給源からでも武器を受け取る権利を持たなければならない - 実際には、主に NATO 諸国。戦場でのウクライナ軍の予想外の成功は、彼らのより大きな動機と、西側からの高度な武器と装備の受領によるものです。私たちにとって、武器輸出を支援することは直観に反しています。一般に、武器取引は資本主義の悪の 1 つです。しかし、今、ウクライナが独立国として生き残るためには、武器の供給が不可欠です。

John-Paul Himka が、9 世紀から現在までのウクライナの歴史を簡潔に（40 ページ）説明しています。

タラス・ビルスは、社会主義者で国際主義者である彼がロシアの侵略に抵抗するために領土防衛軍に勤務している理由を説明します。

ユリア・ユルチェンコはインタビューで、次のようなさまざまな問題について話し合っています。プーチンによって形成されたロシア帝国主義の目標とイデオロギー。ドンバス問題の漸進的解決の可能性（ロシア軍なしで、民主的なプロセスで議論される委譲された自治）；債務帳消しの必要性；Sotsialny Rukh の形成とウクライナでの社会主義を主張する問題。

Viktoriiia Pihul は、侵略が女性と少女に与えた影響についてインタビューを受けています。レジスタンスへの女性の参加。ウクライナの軍隊と市民社会における性差別の問題。

NGPU（ウクライナの独立鉱山労働者組合）の副会長であるナタリヤ・レビツカは、重要な産業とサービスを維持し、人間の重要なニーズをサポートする上での組合の役割について語っています。

国家プロパガンダのためのナチズムの再発明：道徳は力によってどのように置き換えられているかで、Ilya Budraitskis は、ウクライナに対する彼の攻撃の口実としてのプーチンの「非ナチ化」の使用を分析します。

再建

何人かの作家は、ウクライナにはどのような復興が必要なのかという質問に答えています。ウクライナの政府と支配階級、西側諸国と金融機関は、民営化、規制緩和、不安定な雇用というあまりにも馴染み深いネオリベラルなパッケージを主張している。ここに、労働者の権利の回復と拡大、公の協議、そして非常に重要な債務免除という、労働者の利益のための一連の対案があります。いくつかの貢献は、左派のかなりの部分がウクライナを支持することを拒否していることに異議を唱えるものです。

オクサナ・ダチャクは、ウクライナのレジスタンスに対する 10 のひどい左派の議論について、心からの、そして灼熱の批評を投げかけます。

ニコ・ヴォロビョフは次のように説明しています。私はプーチンの戦争に反対して行進しましたが、それはイラク戦争に抗議したのと同じ理由です。

Gilbert Achcar、Simon Pirani、Stephen R Shalom、Dan La Botz は、同じ論争に重要な貢献をしています。これが必要でさえあるのは残念ですが、それが現代の左翼の状態です。

ウクライナ連帯キャンペーンとレジスタンスブックは、この重要な本を作成したことを祝福する必要があります。

国際マルクス主義ヒューマニスト組織は、ウクライナ連帯キャンペーン（英国内）およびウクライナ連帯ネットワーク（米国）に所属しています。

脚注

[1] 「ウクライナ：抵抗と連帯の声」レジスタンスの書籍